

『時事直言』 No.1485 2021年8月30日

[HP] <http://chokugen.com/>

[FAX] 03-3956-1313

[mail] info@chokugen.com

[twitter 日本語] [t_masuda2019/](https://twitter.com/t_masuda2019)

[twitter 英語] [T_Masuda_eng/](https://twitter.com/T_Masuda_eng)

[instagram] [t_masuda2019/](https://www.instagram.com/t_masuda2019/)

[Youtube] [増田俊男チャンネル/](#)



時事評論家 増田俊男

乞うご期待！2021年9月から始まる「増田塾」

主題：「東へ、東へと草木もなびく、東は居いか、住みよいか、？」。

甘酒を知ったら、どくだみ草が飲めない様に、自由の味を堪能してきた現代人は権力社会には我慢がならない。

しかし8月25日現在100万人当たりのアメリカのコロナ感染者数が3,224.60人なのに対し中国が0.1人であることを知るとアメリカ人は少々住み難くても、人間命には代えられないのでいいところがあれば中国へ移りたい気持ちになるだろう。

コロナは誰かが造って世界中の大都市にばら撒いたのか、武漢から世界に広まったのかは別にして、人間の命が常に危険に襲われるコロナのような細菌や病原体に対していかに権力国家が優れているかが世界の目の前で証明された。

私は、「下山の哲学」の名の下に、人間の生活水準が最高域に達し、経済成長が止まり、今まで分配してきた余剰なパイが無くなると、自由を正当化してきた民主主義の意義が薄れてきて、やがて正反対の社会主義が台頭してくると述べ続けてきた。

余剰パイが腕力と騙しの奪い合いになるのを避ける為、自由競争原理を取り入れてきたのは妥当なことであった。

では余剰パイが無くなり、持てるパイを腕力と騙しで奪い合うのを避けるにはどうしたらいいのか。自由を許せば力による奪い合いになるのは自明である。

自由を制限するか、禁止して権力によってパイの偏重を避け平等に分配するしかなくなる。

今まで、何が正しくて、何が正しくないのかを決めてきた基準が合わなくなってきた。

民主主義の国民ファーストから社会主義の国家ファーストにならなくては国民の命が守れなくなってきた。

「命あつてのモノ種」。

人は安全を求め、資本は成長を求める。

生活水準がピークに達したアメリカの一人当たりのGDPは\$63,500、中国は6分の一の\$10,500。

アメリカの経済成長は止まり、中国は伸び続ける。

そして中国にはアメリカの水準まで\$53,000の成長余地がある。

アメリカの命は中国志向、資本は中国での活躍志向になるのはいわば自然の摂理。

中国の最高権力者になった習近平と言えども、高いところから低いところへ流れる水に逆らうことは出来ない、ただ従うのみである。

バイデン米大統領も習近平中国国家主席も、所詮は自然の摂理の落し子でしかない。

次回の「インターネット国際政経塾」(増田塾)は、主題の他にあって各講義名を付けることなく、又20講義で終わるか50講義になるか、やってみないとわからない。

ただ視聴後、直近から2025年までの歴史に残るべき政治・経済が塾生全員の脳裏に焼きつくことになるのは確かである。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、事前にマスタ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX : 03-3956-1313) までお知らせ下さい。